



## 就任に当たってのご挨拶

公益財団法人通信文化協会理事長

齋尾 親徳

このたび、公益財団法人通信文化協会の理事長に就任いたしました齋尾親徳です。

当協会は、一九〇八年に時の後藤新平通信大臣を初代総裁に迎え通信協会として創設されました。本年は一一〇周年に当たります。創設以来、協会は我が国の郵政、通信、放送の各事業分野の発展を支える各種の活動を行ってきており、人と人をつなぐコミュニケーションの発展、向上をサポートする役割を果たしてきました。

現在は、郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、講演会等の文化事業の実施、会報「通信文化」の発行などの事業を行っています。郵政博物館は、百四十年以上にわたる郵政事業の歴史的な資産を数多く展示、公開することにより、先人の努力を次の世代に伝えていきます。前島密賞は、一九五五年度に創設された、通信関係機関のあいだでは最も権威のある賞として個人や研究グループに授与されています。また、本誌「通信文化」は、約六万二千部という大きな部数を毎月発行しています。当協会が行っているこれらの公益的事業を今後もますます充実させ、コミュニケーション、通信文化の意義と重要性を幅広くPRしていきたいと考えています。

ところで今日では、さまざまな分野で大きな変化が起きています。少子化、高齢化は急激な勢いで進行し、地域の過疎化、生産現場での人手不足が深刻化しています。一方、技術の分野では情報通信の発達や人工知能のレベル向上はすさまじく、これまでに経験したことのないような社会が到来するものと予想されています。

明治期、諸制度がまだ発展途上にある中で、内外の厳しい環境に対応し、郵便も含めた通信事業をより強いものとしていくことが協会創設の目的の一つであると「設立の辞」には書かれています。今日の急激な環境変化に対応するため、今一度、協会創設の目的に思いをいたし当協会としてその公益的事業を充実させつつ、少しでも会員の皆様のお役に立つことができればと考えておりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。